

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：商業動態統計(2015年8月)

発表日：2015年9月30日(水)

～実質小売業販売額は底打ちしつつあるものの持ち直しは弱い～

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 副主任エコノミスト 高橋 大輝  
TEL：03-5221-4524

(単位：%)

		商業販売額		卸売業		小売業		百貨店・スーパー			
		前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	百貨店		スーパー	
								前年比	既存店前年比	前年比	既存店前年比
2014	1月	4.4	1.8	4.4	2.8	4.4	1.6	0.7	0.0	3.3	▲ 1.8
	2月	2.5	▲ 1.8	2.0	▲ 1.6	3.6	0.1	2.4	1.4	2.9	0.6
	3月	8.5	7.0	7.5	4.0	11.0	6.5	17.0	16.2	25.3	11.1
	4月	▲ 3.4	▲ 10.3	▲ 3.0	▲ 9.4	▲ 4.3	▲ 13.4	▲ 6.0	▲ 6.7	▲ 9.9	▲ 5.1
	5月	▲ 1.0	2.6	▲ 1.3	2.0	▲ 0.4	3.8	▲ 0.5	▲ 1.2	▲ 1.9	▲ 0.8
	6月	▲ 0.6	▲ 0.2	▲ 0.5	▲ 0.3	▲ 0.6	0.9	▲ 1.2	▲ 1.8	▲ 2.3	▲ 1.5
	7月	0.1	0.6	▲ 0.1	0.9	0.6	0.6	0.3	▲ 0.6	▲ 0.4	▲ 0.7
	8月	▲ 1.6	▲ 1.5	▲ 2.8	▲ 0.5	1.2	1.2	2.8	1.6	2.0	1.4
	9月	1.6	2.8	1.3	1.7	2.3	1.7	1.7	0.5	1.8	0.0
	10月	0.3	▲ 0.9	▲ 0.1	0.0	1.4	▲ 0.6	1.0	0.0	0.2	▲ 0.1
	11月	▲ 2.7	▲ 1.6	▲ 4.1	▲ 0.8	0.5	0.0	1.9	1.1	1.5	0.9
	12月	▲ 1.4	0.8	▲ 2.0	0.1	0.1	0.0	0.7	0.1	0.6	▲ 0.2
2015	1月	▲ 2.7	0.5	▲ 3.1	2.3	▲ 2.0	▲ 1.9	0.6	0.0	▲ 0.4	0.2
	2月	▲ 3.3	▲ 2.4	▲ 4.0	▲ 3.4	▲ 1.7	0.7	2.0	1.3	3.5	0.2
	3月	▲ 8.3	1.4	▲ 7.7	▲ 1.0	▲ 9.7	▲ 1.8	▲ 12.3	▲ 13.0	▲ 17.7	▲ 10.1
	4月	2.5	0.4	1.5	0.5	4.9	0.3	9.5	8.6	13.7	6.3
	5月	▲ 1.9	▲ 1.9	▲ 4.1	▲ 3.0	3.0	1.7	6.3	5.3	6.3	4.8
	6月	1.1	3.0	1.1	3.6	1.0	▲ 0.6	0.6	▲ 0.3	0.4	▲ 0.6
	7月	0.1	▲ 0.4	▲ 0.7	0.0	1.8	1.4	3.2	2.1	3.6	1.2
	8月	▲ 0.3	▲ 1.8	▲ 0.8	▲ 0.4	0.8	0.0	2.6	1.8	2.7	1.4

## ○実質小売業販売額は底打ちしつつあるものの持ち直しは弱い

経済産業省から発表された8月の小売業販売額は、前年比+0.8%（コンセンサス：同+1.2%、レンジ：同▲0.5%～+1.9%）とコンセンサスを下回った。季節調整値では前月比0.0%と横ばいだった。経済産業省による基調判断は「一部に弱さがみられるものの横ばい圏」と変更は無く、消費の基調は依然として弱いことが示された。

物価の影響を考慮した実質小売業販売額（実質化、季節調整は筆者）では、前月比+0.4%と小幅プラスとなった。もっとも、7-8月平均は4-6月期比+0.3%と、1-3月（前期比▲1.0%）、4-6月（同▲0.4%）の減少を取り戻すには至っていない。消費を供給側からみた消費財出荷をみても、7-8月平均は4-6月期比+1.4%と上昇しているものの、4-6月期（前期比▲2.5%）の低下を踏まえれば反発は弱い。消費は底打ちしつつあるものの、その持ち直しは弱いものに留まっている。

## ○業種別の推移

小売業販売額（名目、季節調整値）の内訳をみると、百貨店を含む「各種商品小売業」（前月比+1.7%）、「機械器具小売業」（同+2.8%）などが小売業販売額を押し上げた。8月前半は好天に恵まれたことが、これらの業種の追い風となったようだ。また、「飲食料品小売業」（同+0.3%）は値上げによる影響などを背景に増加傾向が続いた。一方で、「燃料小売業」（同▲3.6%）、「医薬品・化粧品小売業を含むその他小売業」（同▲1.4%）が減少した。ガソリン価格は7月上旬をピークに低下傾向での推移が続いており、「燃料

小売業」は低下傾向での推移が続きそうだ。

### ○先行きは持ち直しを予想も不透明感は強い

先行きの個人消費は徐々に持ち直しに向かうと予想している。消費を取り巻く環境をみると、雇用環境は引き続き良好であるほか、給与の大部分を占める所定内給与は緩やかな増加基調にある。雇用については新規求人数が高水準を維持、賃金についてはベースアップ効果の顕在化が続くとみられることから、先行きについてもともに改善が見込まれる。また、原油価格の下落を背景とした実質購買力の増加や公的年金支給額の増加、プレミアム付商品券といった要因も消費の後押しとなることが期待される。

ただし、家計の節約志向は想定以上に強いとみられることや8月下旬からの株価急落がマインドを冷やした可能性があることなどリスク要因もある。また、7月、8月の小売業販売額を見る限り、個人消費の弱さは払拭される状況にない。総じてみれば、個人消費は徐々に持ち直しに向かうとみているが、持ち直しの時期は後ずれリスクが高まっており、持ち直しペースについては慎重に見ておく必要がある。

